

第1章資料（ふるさと秋田を知ろう）

秋田県の伝統的な祭り・行事

夏

竿燈祭り（秋田市）



時期：毎年8月3日から6日まで
詳細：稲穂に見立てた竿燈を操りながら、力と技を競います。東北三大祭りの一つです。

全国花火競技大会「大曲の花火」（大仙市）



時期：毎年8月最終土曜日
詳細：全国から選ばれた一流の花火師達が日本一を目指して、技を競い合う花火大会。迫力のある音と夜空を彩る光の芸術を楽しめます。

冬

大館アメッコ市（大館市）



時期：毎年2月第2土曜日とその翌日
詳細：様々なアメを販売する店が立ち並びます。その日にアメを食べると風邪をひかないとの言い伝えもあります。

六郷のカマクラ（美郷町）



時期：毎年2月11日から15日
詳細：最終日の「竹うち」では、青竹を持った若者が南北に分かれて打ち合い、豊作を祈願します。

秋田県の食べ物



稲庭うどん

独特の製法で作られた干しうどん。細めの麺はゆで上がりが早く、なめらかな舌触りとツルツルとした喉ごしが特徴です。



じゅんさい

夏の風物詩と言われ、淡泊な味とツルンとした舌触りが珍重されています。



ハタハタ 塩焼き

厳しい冬を迎える11月下旬から12月にかけて産卵のため大群で押し寄せる秋田の「季節ハタハタ」は、魚体が大型なのが特徴です。

秋田県の全国ベスト3は何か

献血率（20～29歳）8.7% 献血率（30～39歳）8.0%
全国1位（令和3年）日本赤十字社「血液事業の現状」

ダリア作付け面積 1,086 a
全国1位（令和2年）県園芸振興課資料

風力発電導入量 648MW
全国2位（令和3年末）一般社団法人日本風力発電協会

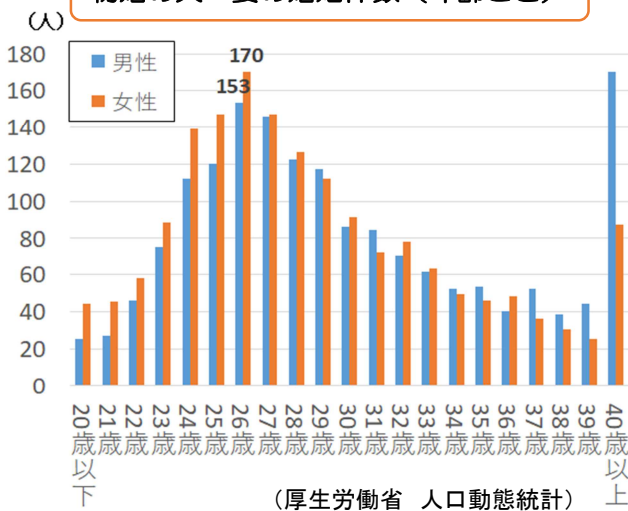
秋田県の結婚事情

結婚は、人生の中でも特に大きなライフイベントの一つです。結婚の先にある出産、子育てを含めてライフプラン全体を考えると、単に結婚するかしないかだけではなく、「いつ結婚するか」ということも大きな意味をもちます。結婚は個人の価値観にかかわることであり、様々な考え方がありますが、秋田県の結婚事情を見ながら「自分の結婚」について考えてみましょう。

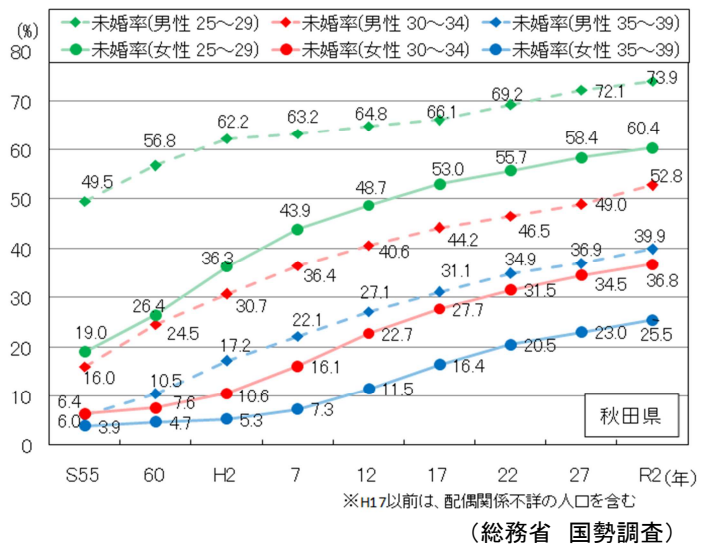
結婚を取り巻く現状

秋田県の平均初婚年齢は、全国平均と同様に上昇傾向にあり、令和3年を昭和55年と比較すると結婚する年齢は約4年遅くなっています。しかし、平均初婚年齢は婚姻件数のピークではなく、令和3年に秋田県で結婚した人が最も多かったのは、男女ともに26歳となっています。

初婚の夫・妻の婚姻件数（年齢ごと）



未婚率の推移



若い世代の結婚観

■若者の結婚願望

県内の学生や独身の就業者へのアンケートでは、男女ともに「いずれ結婚したい」と答えた人が最も多く、「今すぐ結婚したい」も合わせて全体としては結婚に前向きな人が7割を超えます。

TOPIC

一般社団法人 あきた結婚支援センター

結婚する・しないは本人の意思により決めるものですが、結婚はしたいけれど異性と出会う機会がないという人が近年増えつつあります。

これを受けて、県や全市町村、民間団体が共同で「あきた結婚支援センター」を設立し、会員同士のマッチング（お見合い）の支援に取り組んでいます。

令和元年度には、他県に先駆けてAIを搭載したマッチングシステムを導入しました。AIが相性のよい相手を自動的に紹介してくれます。また、令和2年度から「オンラインあきた婚（オンライン婚活）」を実施し、多様な出会いの機会を創出し、結婚を希望する方たちを応援しています。

さらに、令和3年8月からは入会についてもオンラインで手続きが可能となり、利便性も向上しています。



あきた結婚支援センター



秋田県の子育て事情

地域での子育てサポート

少子化、核家族化などの社会環境の変化により、子どもや子育て家庭を支える社会の支援が重要になっています。ここでは、秋田県の子育て支援制度を見ていきましょう。

経済的な支援

◆秋田の保育料助成は全国トップクラス！

秋田県では、子育てを支える制度がいろいろ整えられています。将来子育てをするときには、こうした制度などを考慮することも大切です。

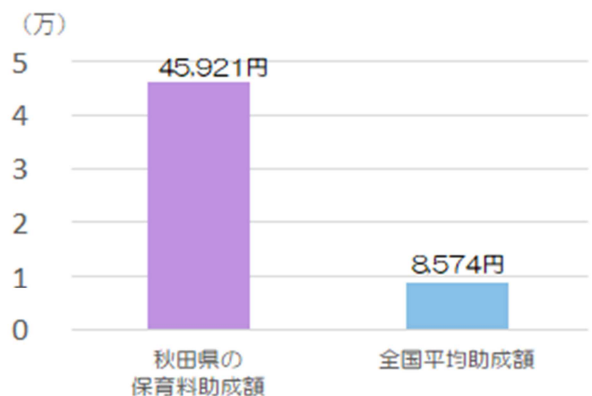
秋田県では、子育て家庭への経済的支援として、市町村との協力により、幼稚園や保育所等に通う子どもへの保育料助成を行っています。所得制限はありますが、利用施設（※①）を問わず第一子から助成しているのは全国で、富山県、兵庫県、島根県、秋田県のみとなっています。また、保育所等で出される給食のうち副食費（おかず代）については、利用施設を問わず第一子から助成しているのは全国で秋田県のみとなっています。（※②）

さらに、病気やけがをした子どもへの医療費助成は、通院費も含めて中学生までを対象とするなど、手厚い助成となっています

※① 利用施設とは幼稚園や保育所、認定こども園、認可外保育施設のこと。

※② 3～5歳の子ども保育料及び世帯年収 360万円未満の家庭の子どもの副食費は国の制度により無償化されています。

子ども1人当たりの保育料助成額



秋田県次世代・女性活躍支援課調べ
(令和4年度当初予算比較)

地域での子育てサポート

子育て支援センター

身近な場所に親子で集まって相談や交流ができるように地域に整備されています。

ファミリー・サポート・センター

子どもの預かりの援助を受けたい人と援助できる人が会員となり、相互の援助活動によって、地域で子育てを支え合う仕組みです。

子育て世代包括支援センター

保健師や助産師等の専門職員が、医療や教育などの様々な機関と連携して、子育て家庭を継続的に支えていく取組です。妊娠初期から子育て期までを切れ目なく支援できるのが特徴であり、全市町村で開設しています。

TOPIC

子育て支援についての情報

あきたの結婚・子育て応援情報Webサイト「いっしょにねっと。」では、様々な子育て支援情報について掲載しています。

いっしょにねっと。URL : <https://common3.pref.akita.lg.jp/kosodate/>

いっしょにねっと。



市町村での取組

地域によって異なるニーズに応えようと市町村でも様々な取組が行われています。

大館市：木育ひろば



木の温もりに触れられる
木育ひろば



子ども達は木のおもちゃ
に興味津々

木育ひろばは、子育て中の親子が木の温もりにふれ、交流できる場として女性センター内に開設しています。床材に温かみのある県産の樺の木、壁には秋田杉の無垢材を使用しているほか、「秋田杉のたまごプール」や「百年杉の森の積み木」をはじめとする40種類の木のおもちゃを用意しており、遊びを通じて木の良さや森林の大切さを感じることができます。

湯沢市：ママと天使の交流会



「ママと天使の交流会」では、生後6ヶ月までの赤ちゃんとお母さん、出産を控えたプレママ（妊婦さん）を対象に、保健師や保育士がサポートしながら、ママ同士のおしゃべりや親子のふれあいをとおして育児不安の解消や母親同士の交流を図っています。

TOPIC

あきた子育てふれあいカード

「あきた子育てふれあいカード」は市町村を通じて交付されており、妊娠中の方や中学3年生までの子どものいる家庭が、子育て家庭を応援する企業・店舗（協賛店）の提供する様々なサービス（割引、ドリンクサービス等）を受けることができます。

「地域で子育てを支えましょう！」という熱い思いで協賛してくださるお店は、秋田県内に約1,900店舗あります。

